

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医の

カルテ



74



くにか動物病院長

(黒部市新牧野)

國香 正寿

猫は他の動物に比べて嘔吐しやす、健康でも吐くことがあります。そのため、家庭では「動物病院で治療を受けた方がいいのかな」「このまま様子をみようかな」と判断を迷うことがたびたびあるかと思えます。

嘔吐は本来、毛球や未消化の食物、異物などを体外へ排出する役割があるため、「1、2回吐いたがその後は元気にして食べている」という状態であれば、必ずしも治療は必要ないと思われます。しかし「頻繁に嘔吐する」「嘔吐が続き食欲もなく、痩せてきている」などの場合は動物病院へ連

猫の食道炎

頻繁な嘔吐は検査を

れて行き、原因をしっかり検査した上で症状をコントロールする必要があるでしょう。嘔吐を起す病気のひとつとして食道炎があります。薬・化学物質

などの誤飲、異物による外傷、過度な嘔吐、胃酸の逆流などが原因となります。その中でも、手術の麻酔中に起こる胃酸の逆流はよくある原因と考えられています。



エックス線造影検査で食道狭窄と診断した猫の画像

軽度な食道炎であれば食欲不振程度で特徴的な症状はあまりみられません。しかし、重度になると「よだれがでる」「嘔吐の回数が増える」「飲み込む痛みからドライフードを嫌がる」などの症状が出てきます。さらにそのままにしておくと、炎症を起こしている部位が狭くなり、食道狭窄という状態になる場合があります。

食道狭窄は治療に複数回の麻酔が必要になることもあるので、食道炎の時点での対処が重要となってきます。

食道炎の治療は「胃酸分泌を抑

えること」「消化器の動きを改善すること」の二つが重要で、自宅での投薬が必要なることもあります。もともと犬に比べて食道の動きが鈍い猫は、錠剤・カプセルが胃に到達するまで時間がかかると言われ、食道炎によってさらに遅延している可能性があります。投薬時は誤嚥に注意し、投薬後には必ず水を飲ませるか、フードを与えた方がよいでしょう。食器は顔を上げて食べられるぐらい高い位置に置き、食べた物や胃酸の逆流を防いで食道の通過をスムーズにすることも大事です。

重度の状態から食道狭窄などにならない限り、食道炎は治療で良くなる病気です。冒頭で書いたように猫は比較的よく吐く動物ですが「いつもと何か違うな」と感じることが早期発見につながります。日頃から猫の様子をよく観察し、体調の変化に気を付けましよう。